

◎指示があるまで開かないこと。

(令和4年2月5日 16時00分～18時30分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は75問で解答時間は正味2時間30分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) (例1)、(例2)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

(例2) 102 医籍訂正の申請が必要なのはどれか。2つ選べ。

- a 氏名変更時
- b 住所地変更時
- c 勤務先変更時
- d 診療所開設時
- e 本籍地都道府県変更時

(例1)の正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

|     |                         |                         |                         |                         |                                  |
|-----|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|----------------------------------|
| 101 | <input type="radio"/> a | <input type="radio"/> b | <input type="radio"/> c | <input type="radio"/> d | <input type="radio"/> e          |
|     |                         |                         | ↓                       |                         |                                  |
| 101 | <input type="radio"/> a | <input type="radio"/> b | <input type="radio"/> c | <input type="radio"/> d | <input checked="" type="radio"/> |

答案用紙②の場合、

|                         |                                  |
|-------------------------|----------------------------------|
| 101                     | 101                              |
| <input type="radio"/> a | <input type="radio"/> a          |
| <input type="radio"/> b | <input type="radio"/> b          |
| <input type="radio"/> c | → <input type="radio"/> c        |
| <input type="radio"/> d | <input type="radio"/> d          |
| <input type="radio"/> e | <input checked="" type="radio"/> |

(例2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の **a** と **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

|     |                                  |                         |                         |                         |                                  |
|-----|----------------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|----------------------------------|
| 102 | <input type="radio"/> a          | <input type="radio"/> b | <input type="radio"/> c | <input type="radio"/> d | <input type="radio"/> e          |
|     |                                  |                         | ↓                       |                         |                                  |
| 102 | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> b | <input type="radio"/> c | <input type="radio"/> d | <input checked="" type="radio"/> |

答案用紙②の場合、

|                         |                                  |
|-------------------------|----------------------------------|
| 102                     | 102                              |
| <input type="radio"/> a | <input checked="" type="radio"/> |
| <input type="radio"/> b | <input type="radio"/> b          |
| <input type="radio"/> c | → <input type="radio"/> c        |
| <input type="radio"/> d | <input type="radio"/> d          |
| <input type="radio"/> e | <input checked="" type="radio"/> |

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d 保健指導を行う義務
- e 都市部で勤務する義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「d」であるから答案用紙の (a) と (c) と (d) をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

|     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 103 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| 103 | ●   | (b) | ●   | ●   | (e) |

↓

答案用紙②の場合、

|     |     |
|-----|-----|
| 103 | 103 |
| (a) | ●   |
| (b) | (b) |
| (c) | → ● |
| (d) | ●   |
| (e) | (e) |

- (3) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 68歳の女性。健康診断の結果を示す。

身長150 cm、体重76.5 kg(1か月前は75 kg)、腹囲85 cm。体脂肪率35 %。

この患者のBMI(Body Mass Index)を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。

解答：① ②

(例4)の正解は「34」であるから①は答案用紙の③を、②は④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

|       |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①     | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 104 ② | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |

答案用紙②の場合、

|     |   |
|-----|---|
| 104 |   |
| ①   | ② |
| 0   | 0 |
| 1   | 1 |
| 2   | 2 |
| 3   | 3 |
| 4   | 4 |
| 5   | 5 |
| 6   | 6 |
| 7   | 7 |
| 8   | 8 |
| 9   | 9 |







- 1 在宅医療を想定している患者・家族への説明で適切なのはどれか。
  - a 胃瘻の造設を行ったので経口摂取は控える。
  - b 中心静脈栄養法での輸液中は体動を制限する。
  - c 仙骨部の褥瘡拡大防止のため円座を使用する。
  - d 男性では膀胱留置カテーテルを下腹部に固定する。
  - e 気管切開による人工呼吸療法のため入浴はできない。
  
- 2 低栄養が疑われる高齢者(BMI 18 kg/m<sup>2</sup>、6 か月で 3 kg の体重減少)で腎障害がない場合の栄養管理として**適切でない**のはどれか。
  - a 水分 : 30 mL/kg/日
  - b 脂肪 : 総エネルギーの 25 %
  - c 糖質 : 総エネルギーの 55 %
  - d タンパク質 : 0.8 g/kg/日
  - e 総エネルギー : 30 kcal/kg/日
  
- 3 医療施設における感染制御チームが**行わない**のはどれか。
  - a 職員の感染防止
  - b 定期的な院内の巡回
  - c 輸入感染症患者の検疫
  - d 適正な微生物検査の推進
  - e 院内感染発生に関するサーベイランス

4 頭部 CT 画像から三次元再構成して得た乳児頭蓋の画像(別冊No. 1)を別に示す。  
成人するまでに消失する縫合線はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



5 地域保健医療について正しいのはどれか。

- a 特定健診・特定保健指導は事業主が行う。
- b 肺がん検診では判定に二重読影が行われる。
- c 地域包括支援センターは都道府県が設置する。
- d 医療法に基づく5疾病5事業には高血圧が含まれる。
- e PSA によるがん検診は対策型がん検診において推奨されている。

6 「新生児の出生直後の胃内容物を採取してピペットで吸排して泡立てる。その後4分間静置して、顕微鏡で1mm<sup>2</sup>あたりの直径15μm未満の泡の数をカウントする」

上記の検査はどの疾患を診断するためのものか。

- a 先天性肺炎
- b 胎便吸引症候群
- c 呼吸窮迫症候群
- d 新生児一過性多呼吸
- e Wilson-Mikity 症候群



7 パンデミックについて適切なのはどれか。

- a 人への新しい種類の感染が確認された状態
- b 通常の見込み以上に感染が拡大している状態
- c 特定の区域や集団内で見込み以上に感染が拡大している状態
- d 特定の区域などで普段から継続的に感染が発生している状態
- e 特定の区域を超えて世界中で感染が拡大して持続している状態

8 レム睡眠で正しいのはどれか。

- a 徐波睡眠と呼ばれる。
- b 骨格筋の活動が活発になる。
- c 夢を見ていることが少ない。
- d 自律神経系の活動が変動しやすい。
- e 成人では一晩の睡眠の半分以上を占める。

9 高額療養費制度において、患者の年齢に加えて月の自己負担限度額を規定する条件はどれか。

- a 疾患の種類
- b 治療の種類
- c 疾患の罹病期間
- d 受診医療機関の規模
- e 患者世帯の標準報酬月額

10 「がん対策推進基本計画(平成30年3月)」において推進されるべきとされている緩和ケアについて誤っているのはどれか。

- a 終末期になってから導入する。
- b 患者の家族に対する対応を含む。
- c 医療用麻薬に関する啓発を行う。
- d 精神腫瘍医の役割についての記載がある。
- e 医師以外の医療従事者も緩和ケアに関わる。

11 A 医師は地域で禁煙を進めるための様々な活動をしている。定期的に地域の小学校に出向いて①小学生への禁煙教育を行い、近くの企業の②産業医として禁煙活動を行っている。また、自らの診療所で③喫煙者の健康診断や④慢性閉塞性肺疾患の患者の呼吸リハビリテーションも行っている。週末には近所の産婦人科に出かけ、母親学級で⑤喫煙妊婦の禁煙指導も行っている。

下線部のうち、三次予防はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

12 滲出性胸水をきたす疾患に含まれないのはどれか。

- a 肺梗塞
- b 肝硬変
- c 急性膵炎
- d 結核性胸膜炎
- e 全身性エリテマトーデス

- 13 ノロウイルスの不活化に有効なのはどれか。
- a 逆性石鹼
  - b 40℃の温水
  - c 40% アルコール
  - d 1分間の赤外線照射
  - e 1,000 ppm(0.1%)次亜塩素酸ナトリウム
- 14 尖足を認め、足関節底屈 20 度の位置から他動的に背屈させることができない。関節可動域の足関節背屈角度の記載として正しいのはどれか。
- a -40 度
  - b -20 度
  - c 0 度
  - d 20 度
  - e 40 度
- 15 総人口を分母とする指標はどれか。
- a 婚姻率
  - b 乳児死亡率
  - c 老年人口指数
  - d 標準化死亡比
  - e 合計特殊出生率

16 痛みを主訴に受診するのはどれか。

- a 子宮前屈
- b 子宮腔癒着
- c 子宮腔部びらん
- d バルトリン腺炎
- e 子宮頸管ポリープ

17 疾病 Y の有病率について、生まれ年が異なる 4 つのコホートを 1965 年度から 2015 年度まで 10 年おきに最大 6 回追跡調査した結果(別冊No. 2)を別に示す。

疾患 Y の有病率について正しいのはどれか。

- a 生まれ年によらず加齢とともに有病率は高くなる。
- b 生まれ年によらず加齢と有病率の関係は変わらない。
- c 生まれ年が早いほど同じ測定時年齢でも有病率は高い。
- d 測定した年度ごとに見ると若年者のほうが有病率は低い。
- e 測定した年度によらず測定時年齢と有病率の関係は変わらない。

別 冊

No. 2

18 慢性炎症に伴う貧血で増加するのはどれか。

- a 血清鉄
- b フェリチン
- c 網赤血球数
- d ハプトグロビン
- e 平均赤血球容積(MCV)

19 毒性物質の負荷量と毒性が発現する確率を示した図(別冊No. 3)を別に示す。

1日摂取許容量の計算に必要な負荷量はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊

No. 3

20 生理食塩液輸液下で2日間の絶食により上昇するのはどれか。

- a HbA1c
- b ケトン体
- c アルブミン
- d トリグリセリド
- e 総コレステロール

21 我が国における近年の疾病や疾病リスクについて正しいのはどれか。

- a 脳血管疾患の患者数は年々増加している。
- b 過剰飲酒の割合は男性低所得層で最も高い。
- c 悪性新生物(全部位)年齢階級別死亡率は60代で増加傾向が見られる。
- d 40歳未満女性の部位別悪性新生物では子宮頸がんが最も罹患率が高い。
- e 糖尿病罹患は遺伝や生活習慣が主要要因で、社会的環境の関与は少ない。

- 22 炎症性疾患にみられる CRP 上昇に最も関与するサイトカインはどれか。
- a IL-1
  - b IL-6
  - c TGF- $\beta$
  - d TNF- $\alpha$
  - e インターフェロン  $\gamma$
- 23 Which is the most likely personal information that can be used to identify an individual person?
- a ABO blood type
  - b Annual income
  - c Date and place of birth
  - d Occupation
  - e Past medical history
- 24 発声時に活動する内喉頭筋を支配する神経はどれか。
- a 顔面神経
  - b 舌咽神経
  - c 迷走神経
  - d 副神経
  - e 舌下神経

- 25 地方衛生研究所の業務でないのはどれか。
- a 人口動態統計に係る統計
  - b 疾病予防に関する調査研究
  - c 地域保健関係者の研修指導
  - d 衛生微生物に関する試験検査
  - e 公衆衛生情報の収集・解析・提供
- 26 2009年に比較して2019年の数値が上昇しているのはどれか。
- a 総人口
  - b 平均寿命
  - c 年間出生数
  - d 生産年齢人口
  - e 合計特殊出生率
- 27 夜盲を訴える患者の診断に有用な検査はどれか。2つ選べ。
- a 隅角検査
  - b 視野検査
  - c 網膜電図
  - d 角膜知覚検査
  - e Hess赤緑試験

- 28 へき地医療拠点病院について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 無医地区の巡回診療を行う。
  - b へき地保健指導所を整備する。
  - c へき地保健医療対策を策定する。
  - d へき地診療所への医師派遣を行う。
  - e 厚生労働大臣によって指定される。
- 29 予防接種法に規定されている定期接種について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 1類疾病と2類疾病がある。
  - b 実施主体は都道府県である。
  - c 接種費用が公費で負担される。
  - d 医師は副反応を疑う症状を知った時に報告する義務がある。
  - e すべての対象疾病について、接種対象者には接種の努力義務がある。
- 30 生活保護法について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 給付の申請は保健所で行う。
  - b 分娩は扶助の対象外である。
  - c 生存権の理念に基づき制定されている。
  - d 介護扶助は原則として金銭給付によって行う。
  - e 医療扶助では原則として後発医薬品を使用する。



- 31 骨盤腔に及ぶ脾腫がみられる頻度が高いのはどれか。2つ選べ。
- a 多発性骨髄腫
  - b 原発性骨髄線維症
  - c 急性骨髄性白血病
  - d 慢性骨髄性白血病
  - e 急性リンパ性白血病
- 32 我が国の労働災害について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 労働災害の認定は産業医が行う。
  - b 死亡者数は年間 100 人以下である。
  - c 業務上疾病で最も多いのは熱中症である。
  - d 休業 4 日以上の傷病者数は近年増加傾向にある。
  - e 精神障害による労働災害認定件数は増加傾向にある。
- 33 収縮期(別冊No. 4A)と拡張期(別冊No. 4B)の経食道心臓超音波像を別に示す。  
正しいのはどれか。2つ選べ。
- a A は右心房である。
  - b B は僧帽弁である。
  - c C は左心室である。
  - d D は肺動脈弁である。
  - e E は左心房である。

|                  |
|------------------|
| 別 冊<br>No. 4 A、B |
|------------------|

34 理学療法士や作業療法士によるリハビリテーションを受けられる介護保険施設または介護サービスはどれか。2つ選べ。

- a 介護老人保健施設
- b 介護老人福祉施設
- c 通所介護(デイサービス)
- d 小規模多機能型居宅介護サービス
- e 通所リハビリテーション(デイケア)

35 出産、育児と就労について正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 産前休業は請求すればいつでも取得できる。
- b 産後休業は出産日翌日から8週間取得できる。
- c 育児休業は子供が1歳の誕生日まで取得できる。
- d 育児休業は子供が3歳になるまで延長できる。
- e 育児休業は配偶者も取得することができる。

36 65歳の女性。多発関節痛を主訴に来院した。5か月前に自宅近くの医療機関で関節リウマチの診断を受けた。B型およびC型肝炎ウイルス検査、結核菌特異的全血インターフェロン $\gamma$ 遊離測定法<IGRA>は陰性で、メトトレキサートとプレドニゾンによる治療が開始されたが、症状が改善しないため紹介受診となった。多発関節炎を認め、生物学的製剤による治療の適応と考えられた。併存疾患はない。輸血歴、結核の家族歴や接触歴もない。末梢血白血球数、リンパ球数、血清IgG、胸部エックス線検査に異常を認めない。

この患者で生物学的製剤による治療開始前に追加すべき検査はどれか。

- a 抗EBNA抗体
- b  $\beta$ -D-グルカン
- c 抗アスペルギルス抗体
- d 抗水痘・帯状疱疹ウイルス抗体
- e 血中サイトメガロウイルス抗原

37 75歳の女性。血便を主訴に来院した。半年前から時折暗赤色の血便があったが、自然軽快するため様子を見ていた。3日前から再び血便が出現したため受診した。受診日の朝には普通便に戻っていた。既往歴に特記すべきことはなく、現在内服薬はない。意識は清明。体温36.8℃。脈拍84/分、整。血圧116/84 mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub>96%(room air)。眼瞼結膜に軽度貧血を認める。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。直腸指診で異常を認めない。血液所見：赤血球345万、Hb8.6 g/dL、Ht26%、白血球7,400、血小板26万、血液生化学所見：総蛋白6.8 g/dL、アルブミン3.6 g/dL、総ビリルビン0.9 mg/dL、AST26 U/L、ALT27 U/L、LD265 U/L(基準値120~245)、アミラーゼ65 U/L(基準37~160)、尿素窒素21 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、Fe23 μg/dL、フェリチン10 ng/mL(基準20~120)、TIBC412 μg/dL(基準290~390)、血糖101 mg/dL、Na142 mEq/L、K4.6 mEq/L、Cl99 mEq/L。CRP0.1 mg/dL。便潜血検査陽性。腹部造影CT、上部および下部消化管内視鏡検査を施行したが病変は認めなかった。

次に行う検査として適切なのはどれか。

- a 小腸造影
- b 腹部MRI
- c 腹部血管造影
- d 小腸カプセル内視鏡
- e Meckel憩室シンチグラフィ

38 56歳の男性。自宅火災があり、初期消火を行おうとしたところ顔面、両手に受傷し救急搬送された。咽頭痛と咳嗽を訴えている。意識は清明。体温36.0℃。心拍数124/分、整。血圧140/90 mmHg。呼吸数24/分、喘鳴を聴取する。SpO<sub>2</sub> 99% (マスク6 L/分 酸素投与下)。顔面および口腔に煤が付着しており、毛髪が焼けている。胸部エックス線写真では異常を認めない。

次に行うべき検査として適切なのはどれか。

- a 胸部MRI
- b 気管支鏡検査
- c 肺動脈造影検査
- d 肺血流シンチグラフィ
- e 上部消化管内視鏡検査

39 64歳の女性。1年前から徐々に物忘れがひどくなってきていることを心配した家族に伴われて来院した。最近では財布をしまったことや食事をしたことを思い出せないこともあるという。

この患者の診断に有用な検査はどれか。

- a Rorschach テスト
- b 田中・Binet 知能検査
- c 津守・稲毛式発達検査
- d Wechsler 成人知能検査
- e 簡易精神症状評価尺度[Brief Psychiatric Rating Scale (BPRS)]

40 21歳の女性。顔面の皮疹とふらつきを主訴に来院した。1か月前、海水浴に行った後から、微熱、顔面の皮疹、手指関節痛、ふらつきが出現し、改善がないため受診した。体温37.6℃。眼瞼結膜は貧血様で、眼球結膜に軽度黄染を認める。両頬部に紅斑を認める。硬口蓋粘膜に発赤とびらんを認める。両側の複数の近位指節間関節に腫脹と圧痛を認める。尿所見：蛋白2+、潜血3+、沈渣に赤血球、円柱を認めない。血液所見：赤血球298万、Hb7.9g/dL、Ht25%、白血球2,800、血小板12万。血液生化学所見：総蛋白7.0g/dL、アルブミン3.2g/dL、AST45U/L、ALT20U/L、LD298U/L(基準120~245)、ALP98U/L(基準38~113)、尿素窒素12mg/dL、クレアチニン0.6mg/dL、Fe42μg/dL。免疫血清学所見：CRP0.2mg/dL、抗核抗体320倍(基準20以下)、抗dsDNA抗体364IU/mL(基準12以下)、直接クームステスト陽性。

この患者で予想される検査所見はどれか。

- a 網赤血球数低下
- b ハプトグロビン低下
- c C1インヒビター低下
- d ADAMTS-13活性低下
- e 血清補体価(CH50)上昇

41 84歳の女性。頭痛を主訴に来院した。今朝自宅内の段差で転倒し頭部を打撲し、頭痛を生じたため息子に付き添われて受診した。最近では歩行が小刻みになり自宅内でも転倒が多いという。息子とは同居しているが日中は仕事で不在である。自宅近くの診療所を不定期に受診しているが詳細は不明で、薬が自宅に多く残されているという。身長152 cm、体重46 kg。頭部以外に疼痛の訴えはない。歩行は小刻みで、両側上肢に筋強剛を認める。振戦はない。血液所見：赤血球421万、Hb 12.0 g/dL、Ht 39%、白血球7,600、血小板28万。血液生化学所見：総蛋白6.0 g/dL、アルブミン3.4 g/dL、尿素窒素25 mg/dL、クレアチニン0.7 mg/dL、血糖150 mg/dL、HbA1c 6.9% (基準4.6~6.2)、Na 143 mEq/L、K 4.3 mEq/L、Cl 108 mEq/L。頭部単純CTで頭蓋内出血を認めない。

この患者への対応で適切でないのはどれか。

- a 認知機能の確認を行う。
- b 内服薬の内容を確認する。
- c 摂取エネルギー量の制限を指導する。
- d 在宅支援のために訪問看護の介入を依頼する。
- e 頭部外傷後の遅発性合併症について説明を行う。

42 10か月の男児。昨夜から血便、嘔吐を認め、機嫌も悪いため母親に連れられて来院した。①足底を刺激すると開眼し、②皮膚色はピンク色である。③ツルゴールは軽度低下しており、④口唇の乾燥は軽度である。⑤毛細血管再充満時間は3秒である。

この患児で循環不全を示す所見は下線部のうちどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

43 52歳の女性。血便を主訴に来院した。3か月前に便に血液が付着していることに気付いたが、自然軽快したため受診していなかった。1週間前から再び便に血液が付着するのに気づき受診した。腹痛はなく排便回数は1回/日である。身長162 cm、体重58 kg。体温36.7℃。脈拍72/分、整。血圧116/72 mmHg。呼吸数14/分。SpO<sub>2</sub> 99% (room air)。眼瞼結膜に軽度貧血を認める。腹部は平坦、軟で、腫瘤を触知しない。腸雑音に異常を認めない。直腸指診で異常を認めない。血液所見：赤血球308万、Hb 8.9 g/dL、Ht 28%、白血球6,800、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白6.0 g/dL、アルブミン3.2 g/dL、総ビリルビン0.6 mg/dL、AST 12 U/L、ALT 20 U/L、LD 277 U/L (基準120~245)、尿素窒素20 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL。CRP 0.7 mg/dL。下部消化管内視鏡のS状結腸像(別冊No. 5)を別に示す。生検組織の病理診断で高分化腺癌が確認された。

次に行うべきなのはどれか。

- a 便培養
- b 腹部MRI
- c FDG-PET
- d 胸腹部造影CT
- e 腹部血管造影検査

別冊

No. 5



44 日齢3の男児。軽度の腹部膨満を認めると看護師から指摘があった。在胎40週、3,100gで出生。①胎便排泄は生後48時間に認められた。②体重2,950g。体温37.0℃。心拍数136/分、整。血圧74/46mmHg。呼吸数40/分。③大泉門は2×2cmであった。④皮膚は黄疸を認める。腹部は⑤肝臓を右季肋下に1cm触知した。

下線部のうち異常所見はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

45 78歳の男性。発汗と悪心を主訴に来院した。前日の朝、ソファに座って新聞を読んでいたところ、発汗と悪心が出現したが5分程度で改善した。当日朝、リビングで椅子に座ってテレビを見ていたところ発汗と悪心が出現したため、心配した家族に伴われて受診した。高血圧症、糖尿病、陳旧性心筋梗塞で自宅近くの医療機関に通院中である。体温35.8℃。脈拍96/分、整。血圧128/86mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub>96%(room air)。胸部聴診で異常を認めない。来院時の簡易測定血糖は195mg/dLであった。

血液検査とともにまず行うべき検査はどれか。

- a 胸部造影CT
- b 12誘導心電図
- c 心エコー検査
- d 運動負荷心電図
- e 心筋シンチグラフィ

46 32歳の女性。産褥3日目で入院中である。妊娠38週6日に2,900gの女児を経膣分娩した。分娩経過に異常は認めず、分娩時の出血量も正常であった。現時点までの産褥経過も順調である。

本日の所見として正しいのはどれか。

- a 初乳がみられる。
- b 黄色悪露がみられる。
- c 内子宮口は閉鎖している。
- d 腹壁上から子宮底を触れない。
- e 産後の後陣痛を最も強く感じる。

47 42歳の女性。手のこわばりを主訴に来院した。手の症状には約3か月前から気付いている。厳格な菜食主義で魚介類や乳製品を10年以上摂取していない。味覚に異常を認めない。神経診察に異常を認めない。血液所見：赤血球414万、Hb 13.1 g/dL、白血球6,900、血小板18万。血液生化学所見：アルブミン4.0 g/dL、Na 137 mEq/L、K 4.1 mEq/L、Cl 106 mEq/L、Ca 7.8 mg/dL、P 2.2 mg/dL。

この患者で欠乏が考えられるのはどれか。

- a 亜鉛
- b 葉酸
- c ビタミンB<sub>1</sub>
- d ビタミンD
- e ビタミンE

48 28歳の女性。悪心と倦怠感を主訴に受診した。最終月経は8週間前。無月経のため5日前に行った妊娠検査薬が陽性だった。軽度の下腹部痛を自覚している。最近食欲が低下しているという。内診で性器出血は認めず、経膈超音波検査で子宮内に頭殿長18mmの心拍を有する胎児を認める。身長156cm、体重48kg(非妊時49kg)。尿ケトン陰性。飲食店勤務のため立ち仕事が多く勤務時間を短くしたいという相談があった。

適切な対応はどれか。

- a 保健センターへの連絡を勧める。
- b 勤務先へ診療情報提供書を送付する。
- c 産前休業を申請するように指示する。
- d 母性健康管理指導事項連絡カードを発行する。
- e 職場へ母子健康手帳を提示するように指示する。

49 75歳の女性。夜間に徘徊することに困った夫に付き添われて来院した。78歳の夫と2人暮らしである。60歳で発症したアルツハイマー型認知症が進行し、最近3カ月はひとりで出かけて自宅から離れた場所まで歩き回り、警察に保護されることが多くなった。徘徊や不眠などの原因精査と治療のため、精神科病棟に入院することになった。本人はほとんど言葉を発せず、意思も確認できない。夫の認知機能に低下は認めない。

適切な入院形式はどれか。

- a 緊急措置入院
- b 措置入院
- c 応急入院
- d 医療保護入院
- e 任意入院

50 36歳の女性(1妊0産)。破水感を主訴に来院した。これまでの妊娠経過に異常を認めない。妊娠37週1日、午前6時に破水感を自覚し午前8時に受診した。身長148cm、体重54kg(非妊時46kg)。体温37.3℃。脈拍92/分、整。血圧132/76mmHg。呼吸数18/分。膣鏡診で羊水の流出を認める。内診で子宮口は2cm開大、展退度は40%、硬度は硬、先進部は頭部で下降度はSP+1cmだった。午前10時に陣痛が発来し経過観察したところ、午後1時から4分ごとの規則的な子宮収縮を認めた。午後6時の時点で子宮口は3cm開大、展退度は50%、先進部はSP+2cm、児頭の矢状縫合は母体骨盤の縦径にほぼ一致し、大泉門を1時方向に触知する。陣痛は4分間隔で、持続時間が1分30秒である。母体の身長を考慮し入院時に行った産科的骨盤計測写真(別冊No. 6)を別に示す。

診断はどれか。

- a 遷延分娩
- b 微弱陣痛
- c 分娩停止
- d 前方前頭位
- e 児頭骨盤不均衡

別 冊

No. 6

51 52歳の男性。健康診断で肥満を指摘され来院した。3か月前の健康診断で異常をはじめて指摘された。20歳時の体重は65kgであった。既往歴と家族歴に特記すべき事項はない。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。健康診断以降、早朝1時間の散歩をしている。身長170cm、体重74kg。BMI 25.6。脈拍64/分、整。血圧128/82 mmHg。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下肢に浮腫を認めない。

この患者の行動変容のステージに基づく指導として適切なのはどれか。

- a 「肥満は生活習慣病の原因のひとつです」
- b 「多くの人が散歩していると思いますよ」
- c 「早朝1時間の散歩を始めたのは良いことですね」
- d 「肥満は身体に良くないので痩せる努力をしましょう」
- e 「肥満につながる生活スタイルを見直すと良いですよ」

52 第1子(3歳 男児)が臨床的に Duchenne 型筋ジストロフィーと診断されている両親が遺伝カウンセリングを受けるために来院した。第1子はこれまで遺伝子検査を受けたことがない。他に Duchenne 型筋ジストロフィーと診断されている家族はいない。

正しいのはどれか。

- a 母親は本疾患の確定保因者である。
- b 本疾患に突然変異による発症はない。
- c 女性が本疾患の症状を示すことはない。
- d 本疾患の遺伝子検査の感度は100%である。
- e 第1子の遺伝子検査が陰性でも診断は変わらない。

53 28歳の初妊婦(1妊0産)。妊娠36週、胎児発育不全を指摘され来院した。妊娠32週の妊婦健康診査で推定胎児体重が1,586g(-1.0SD)であった。妊娠34週の妊婦健康診査で1,776g(-1.5SD)であり胎児発育不全と診断されたため、かかりつけの産科診療所から紹介され受診した。母体合併症は認めなかった。胎児超音波検査で大横径(BPD)87mm(0.0SD)、腹囲(AC)25cm(-2.2SD)、大腿骨長(FL)64mm(-0.2SD)、推定胎児体重(EFW)1,904g(-2.1SD)であり、羊水指数(AFI)6cm、胎児形態異常は認めなかった。これまでの胎児計測の経過(別冊No. 7A)と来院時の胎児心拍数陣痛図(別冊No. 7B)とを別に示す。

胎児の病態について正しいのはどれか。

- a 貧血になっている。
- b 腎血流が増加している。
- c 脳血流が増加している。
- d 臍帯血流が障害されている。
- e アシデミア(酸血症)になっている。

|                 |
|-----------------|
| 別冊<br>No. 7 A、B |
|-----------------|

54 26歳の男性。ある国から日本国内の空港に帰国した。日本国籍を有している。到着時、発熱と下痢を伴っており、出発国の状況から一類感染症の可能性が考えられた。

この患者に関わる対応で検疫法に基づいて検疫所長が行うことができるとされている措置として誤っているのはどれか。

- a 本人の隔離
- b 航空機の消毒
- c 出発国への送還
- d 出発国での行動歴の聴取
- e 可能性のある病原体の検査

55 57歳の男性。腎機能低下を主訴に来院した。35歳でIgA腎症と診断され、自宅近くの診療所を定期受診していた。腎機能が次第に悪化し、腎代替療法の準備が必要と判断されて受診した。IgA腎症の診断時に高血圧症を指摘されて降圧薬を、50歳からは2型糖尿病を指摘されて経口血糖降下薬を服用中である。身長170cm、体重80kg。脈拍72/分、整。血圧136/80mmHg。胸腹部に異常はない。両下腿に軽度の浮腫を認める。尿所見：蛋白2+、潜血2+。血液所見：赤血球325万、Hb9.7g/dL、Ht29%、白血球5,700、血小板20万。血液生化学所見：尿素窒素60mg/dL、クレアチニン3.3mg/dL、eGFR16.5mL/分/1.73m<sup>2</sup>、HbA1c6.4%（基準4.6~6.2）、Na142mEq/L、K5.0mEq/L、Cl102mEq/L。血液型はA型、RhD(+)。腎代替療法の説明の際に、患者は妻からの腎移植を希望していることがわかった。妻は55歳で生来健康であり、血液型はO型、RhD(+)である。妻は患者への腎臓提供に同意している。

この患者の腎移植に関する説明で適切なのはどれか。

- a 患者に糖尿病があるので移植を受けられない。
- b 血液型が違うので妻からの移植は受けられない。
- c 移植を受けるために患者は退職する必要がある。
- d 透析を開始した後でなければ移植を受けられない。
- e 術前検査で患者に癌が見つければ移植を受けられない。

56 6歳6か月の女兒。約1年前から乳房腫大に気づかれていたが、次第に目立ってきたため母親に連れられて来院した。身長127 cm、体重26 kg。体温36.3℃。外表に異常を認めず、甲状腺腫を触知しない。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦で、肝・脾を触知しない。乳房の成熟度は両側とも Tanner 分類でⅢ度である。血中エストラジオール値と LH-RH 試験の結果は乳房腫大に矛盾しない。成長曲線(別冊No. 8)を別に示す。

診断に有用な検査はどれか。2つ選べ。

- a 頭部 MRI
- b 染色体検査
- c 心エコー検査
- d マンモグラフィ
- e 手根骨エックス線撮影

別 冊

No. 8



57 32歳の女性。意識障害のため友人に伴われて来院した。暖炉の火が燃えているままの部屋で倒れている患者を発見し、友人が乗用車で救急外来に搬送した。来院時の呼びかけに応答せず、けいれんがみられる。体温 36.8℃。心拍数 104/分、整。血圧 98/60 mmHg。呼吸数 12/分。SpO<sub>2</sub> 99% (room air)。瞳孔径は両側 4 mm で対光反射は迅速である。眼瞼結膜と眼球結膜に異常を認めない。心音と呼吸音に異常を認めない。体表に熱傷やその他の外傷はみられない。皮膚は鮮紅色でチアノーゼを認めない。胃洗浄で薬物は検出されない。血液生化学所見：乳酸 40 mg/dL (基準 5~20)。動脈血ガス分析 (room air)：pH 7.30、PaCO<sub>2</sub> 32 Torr、PaO<sub>2</sub> 70 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 21 mEq/L、BE〈base excess〉-3.0 mEq/L。

まず行うべき対応はどれか。2つ選べ。

- a 頭部 MRI
- b 酸素投与
- c ジアゼパム投与
- d 胸部エックス線
- e 高気圧酸素治療

58 40歳の女性。特定健康診査を受けた。既往歴に特記すべきことはない。喫煙歴はない。飲酒は日本酒5合/日である。身長148cm、体重65kg。BMI29.6。腹囲92cm。体温36.4℃。脈拍72/分、整。血圧128/68mmHg。血液所見(空腹時)：赤血球352万、Hb9.8g/dL、Ht32%、白血球9,200。血液生化学所見：総蛋白6.4g/dL、アルブミン2.8g/dL、AST76U/L、ALT58U/L、LD338U/L(基準120~245)、尿素窒素25mg/dL、クレアチニン0.8mg/dL、血糖102mg/dL、HbA1c5.8%(基準4.6~6.2)、総コレステロール220mg/dL、HDLコレステロール42mg/dL、トリグリセリド140mg/dL。Na135mEq/L、K4.2mEq/L、Cl93mEq/L。

この患者で特定保健指導による支援が必要とされる基準に該当するのはどれか。

2つ選べ。

- a BMI 29.6
- b 腹囲 92 cm
- c Hb 9.8 g/dL
- d AST 76 U/L
- e 日本酒 5 合/日

59 40歳の男性。職場の特殊健康診断で受診した。工場でシンナーを使用した吹付け塗装作業を担当している。自覚症状は特にない。AST 80 U/L、ALT 60 U/L。喫煙は20本/日を15年間。飲酒はビール500 mL/日を20年間。工場内の局所排気装置は稼働している。作業着は半袖で、防毒マスク、軍手は常時着用している。特殊健康診断で測定した検体の代謝物濃度が高濃度であった。

高濃度を示す代謝物はどれか。2つ選べ。

- a 尿中デルタアミノレブリン酸
- b 血中アセトアルデヒド
- c 尿中マンデル酸
- d 血中コチニン
- e 尿中馬尿酸

次の文を読み、60～62の問いに答えよ。

82歳の女性。歩行困難のため救急車で搬入された。

**現病歴** : 1か月前から倦怠感を訴えていた。前日の朝から食欲不振が出現し、午後になって2回嘔吐した。当日朝から落ち着きがなくなり、いつもと違う様子であった。その後、歩行困難と尿失禁を認め次第に呼びかけへの反応が悪くなったため家族が救急車を要請した。

**既往歴** : 51歳時、子宮筋腫で子宮全摘術。58歳から高血圧症、慢性心房細動、脂質異常症のため自宅近くの医療機関に通院中でありカルシウム拮抗薬、β遮断薬、スタチン、ワルファリンを内服中である。2か月前から三叉神経痛に対しカルバマゼピンが開始となった。

**生活歴** : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。夫(83歳)、長男夫婦と同居。海外渡航歴はない。

**家族歴** : 母が76歳時に脳梗塞を発症。

**現症** : 意識レベルはJCSⅢ-100。身長152 cm、体重58 kg。体温36.2℃。脈拍92/分、不整。血圧162/98 mmHg。呼吸数22/分。SpO<sub>2</sub> 99% (room air)。眼位は正位である。瞳孔径は両側3.0 mmで、左右差を認めない。対光反射は両側とも迅速。胸腹部に異常を認めない。

**検査所見** : 尿所見：蛋白2+、糖+、潜血(-)。血液所見：赤血球509万、Hb 15.9 g/dL、Ht 41%、白血球8,700、血小板26万。血液生化学所見：総蛋白8.5 g/dL、アルブミン5.2 g/dL、AST 36 U/L、ALT 20 U/L、γ-GT 28 U/L (基準8~50)、尿素窒素14.6 mg/dL、クレアチニン0.6 mg/dL、尿酸3.6 mg/dL、Na 108 mEq/L、K 3.5 mEq/L、Cl 73 mEq/L、Ca 10.0 mg/dL、P 3.8 mg/dL、随時血糖198 mg/dL、TSH 2.28 μU/mL (基準0.2~4.0)、ACTH 12.6 pg/mL (基準60以下)、FT<sub>4</sub> 1.5 ng/mL (基準0.8~2.2)、コルチゾール12.5 μg/dL (基準5.2~12.6)。CRP 0.1 mg/dL。尿浸透圧702 mOsm/L (基準50~1,300)、尿Na 163 mEq/L、尿K 68 mEq/L、尿Cl 190 mEq/L。

- 60 この患者の病態の原因はどれか。
- a レニン
  - b インスリン
  - c カテコラミン
  - d バソプレシン
  - e エリスロポエチン
- 61 この患者の内服薬のうち病態の原因として最も可能性が高いのはどれか。
- a  $\beta$  遮断薬
  - b スタチン
  - c ワルファリン
  - d カルバマゼピン
  - e カルシウム拮抗薬
- 62 この患者に投与すべきなのはどれか。
- a 維持輸液 (組成 :  $\text{Na}^+$  35 mEq/L、 $\text{K}^+$  20 mEq/L、 $\text{Cl}^-$  35 mEq/L、グルコース 5.0%)
  - b 高張 (3%) 食塩液
  - c 脂肪乳剤
  - d 10% ブドウ糖液
  - e 乳酸リンゲル液

次の文を読み、63～65の問いに答えよ。

62歳の女性。腰痛、発熱および嘔吐を主訴に救急車で搬入された。

**現病歴** : 3日前から間欠的な右腰痛を自覚していた。今朝起床時から悪寒も自覚するようになった。夕刻になり発熱と繰り返す嘔吐も出現し、動けなくなったため救急車を要請した。

**既往歴** : 30年前に子宮筋腫摘出術。

**生活歴** : 夫と二人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

**家族歴** : 両親が高血圧症であった。

**現症** : 意識レベルはJCS I-1。身長158 cm、体重55 kg。体温38.9℃。脈拍110/分、整。血圧88/54 mmHg。呼吸数26/分。SpO<sub>2</sub> 99% (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜に異常を認めない。甲状腺と頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦で、肝・脾を触知しない。右腰部に叩打痛を認める。腸雑音はやや減弱している。四肢に浮腫を認めない。皮膚には皮疹を認めない。

**検査所見** : 尿所見：黄褐色でやや混濁、比重1.020、pH 5.5、蛋白+、糖(-)、潜血3+、白血球+、ケトン(-)、亜硝酸+。血液所見：赤血球407万、Hb 13.2 g/dL、Ht 38%、白血球12,600(好中球77%、好酸球1%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球15%)、血小板13万。血液生化学所見：総蛋白6.3 g/dL、アルブミン4.2 g/dL、総ビリルビン1.0 mg/dL、AST 42 U/L、ALT 40 U/L、LD 228 U/L(基準120~245)、ALP 105 U/L(基準38~113)、 $\gamma$ -GT 45 U/L(基準8~50)、CK 131 U/L(基準30~140)、尿素窒素24 mg/dL、クレアチニン1.3 mg/dL、血糖120 mg/dL、Na 132 mEq/L、K 3.8 mEq/L、Cl 104 mEq/L、Ca 8.5 mg/dL。CRP 2.2 mg/dL。乳酸2.5 mg/dL(基準5~20)。動脈血ガス分析(room air)：pH 7.43、PaCO<sub>2</sub> 25 Torr、PaO<sub>2</sub> 88 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 16.5 mEq/L。

腹部単純CT(別冊No. 9)を別に示す。

別冊

No. 9

63 最初に行うべき対応はどれか。

- a アドレナリン静注
- b NSAID内服
- c 経鼻胃管留置
- d 生理食塩液輸液
- e 尿管ステント留置

64 入院時に採取された血液培養は、好気性ボトルと嫌気性ボトルがいずれも陽性になった。血液培養ボトルの内容液のグラム染色所見(別冊No. 10)を別に示す。

最も可能性が高いのはどれか。

- a *Candida albicans*
- b *Enterococcus faecalis*
- c *Escherichia coli*
- d *Neisseria gonorrhoeae*
- e *Pseudomonas aeruginosa*

|               |
|---------------|
| 別 冊<br>No. 10 |
|---------------|

65 抗菌薬投与を含む治療の結果、入院4日目から解熱を認めた。以後順調に回復し抗菌薬治療は合計10日間の計画としていたが、入院8日目になり再度の発熱と腹痛を認めた。入院7日目の看護記録によると、茶褐色の水様下痢が合計8回あった。意識は清明。体温38.2℃。血圧90/56 mmHg。脈拍112/分、整。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub> 98%(room air)。腹部は全体に圧痛を認め、やや膨隆している。腸雑音は減弱している。腰部叩打痛は認めない。

この時点で実施すべき検査はどれか。

- a 心電図
- b 尿培養
- c 脳脊髄液検査
- d 便潜血
- e 便中CDトキシン

次の文を読み、66～68の問いに答えよ。

73歳の男性。ふらつきを主訴に来院した。

**現病歴** : 3日前に重い荷物を持ち上げた時に腰痛が出現し、自宅近くの診療所でNSAIDの処方を受けた。早期の症状改善を期待して毎食後に服用していたが、昨日から心窩部痛を自覚し十分に食事や水分がとれなかったという。本日朝からふらつきが出現したため家族に連れられて受診した。

**既往歴** : 高血圧症、糖尿病、脂質異常症および不眠症に対し、アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬、スルホニル尿素薬、スタチンおよびベンゾジアゼピン系睡眠薬を内服している。

**生活歴** : 妻と2人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

**家族歴** : 両親が高血圧症であった。

**現症** : 意識レベルはJCS I-1。脈拍48/分、不整。血圧86/50 mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub> 98%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜に異常を認めない。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。皮膚は乾燥している。

**検査所見** : 血液所見：赤血球405万、Hb 13.4 g/dL、Ht 36%、白血球6,600、血小板22万。血液生化学所見：総蛋白7.3 g/dL、アルブミン4.2 g/dL、総ビリルビン0.7 mg/dL、AST 25 U/L、ALT 20 U/L、LD 225 U/L(基準120~245)、ALP 100 U/L(基準38~113)、尿素窒素35 mg/dL、クレアチニン2.4 mg/dL、尿酸8.1 mg/dL、血糖120 mg/dL、Na 138 mEq/L、K 7.6 mEq/L、Cl 108 mEq/L。CRP 0.1 mg/dL。



- 66 直ちに行うべき検査はどれか。
- a 頭部 CT
  - b 尿中薬物検査
  - c 12 誘導心電図
  - d 心エコー検査
  - e 胸部エックス線検査
- 67 直ちに投与すべき薬剤はどれか。
- a ドパミン
  - b アトロピン
  - c アドレナリン
  - d 硫酸マグネシウム
  - e グルコン酸カルシウム
- 68 病態に関連する可能性のある薬剤はどれか。2つ選べ。
- a NSAID
  - b スタチン
  - c スルホニル尿素薬
  - d ベンゾジアゼピン系睡眠薬
  - e アンジオテンシン変換酵素〈ACE〉阻害薬

次の文を読み、69～71の問いに答えよ。

56歳の女性。歩行困難と嚥下困難を主訴に来院した。

**現病歴** : 2年前から左上肢の筋力低下を自覚した。1年前から右上肢にも同様の症状を自覚するようになり、自宅近くの診療所を受診したところ、病院の脳神経内科に紹介受診となった。入院精査の結果、筋萎縮性側索硬化症(ALS)の診断を受けた。その後、病院に通院していたが下肢筋力が低下して徐々に歩行困難となった。3か月前からは、しゃべりにくさを自覚した。時々食事でむせることもあった。病院への通院が困難となり、在宅医療への移行を相談するために受診した。

**既往歴** : 健診で高血圧を指摘されたことがあるが、内服治療はしていない。

**生活歴** : もともとパート勤務をしていたが発症後は退職した。夫と二人暮らし。長男、長女は独立し別居している。

**家族歴** : 父が肺癌、母は子宮癌であった。

**現症** : 意識は清明。身長152 cm、体重38 kg。体温36.6℃。脈拍76/分、整。血圧108/68 mmHg。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。神経診察では①眼球運動は正常。顔面の感覚には異常を認めない。②咬筋および口輪筋の筋力は保たれている。③挺舌は可能だが、舌筋には軽度の萎縮とぴくぴくとした不規則な動きがみられる。発声時の咽頭挙上は不良。四肢は右側優位に筋萎縮、筋力低下がみられ、④立位保持は可能だが、歩行は支えがないと困難である。腱反射は上肢で減弱し、下肢は亢進。Babinski徴候は両側陽性。右肩関節は可動域制限があり他動的に動かすと疼痛を訴える。痛覚、深部感覚の異常はない。トイレへの移動には介助が必要だが、⑤排泄は可能である。

**検査所見** : 尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)。血液所見：赤血球462万、Hb 12.6 g/dL、Ht 40%、白血球6,200、血小板24万。血液生化学所見：総蛋白6.6 g/dL、アルブミン3.8 g/dL、AST 26 U/L、ALT 30 U/L、LD 204 U/L(基準120~245)、ALP 68 U/L(基準38~113)、尿素窒素18 mg/dL、クレアチニン0.2 mg/dL、血糖76 mg/dL、Na 136 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 98 mEq/L。CRP 0.1 mg/dL。動脈血ガス分析(自発呼吸、room air)：pH 7.38、PaCO<sub>2</sub> 42 Torr、PaO<sub>2</sub> 92 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 26 mEq/L。心電図と胸部エックス線写真に異常を認めない。

69 下線部のうち、今後も維持される可能性が高い機能はどれか。2つ選べ。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

70 今後の在宅療養に向けて必要な検査はどれか。

- a 頸椎 CT
- b 頭部 MRI
- c 針筋電図
- d 嚥下機能検査
- e 末梢神経伝導検査

71 今後の在宅生活に必要なのはどれか。3つ選べ。

- a 口腔ケア
- b 住宅改修
- c 筋力増強訓練
- d 自己導尿指導
- e コミュニケーションの支援

次の文を読み、72～74の問いに答えよ。

87歳の女性。両側下腿浮腫を主訴に夫と息子夫婦とともに来院した。

**現病歴** : 約半年前から両側下腿浮腫が出現し、自宅近くの医療機関で少量の利尿薬を処方されていた。3か月前から下腿浮腫の悪化のため歩きにくくなり、労作時の息切れも感じるようになった。2週間前からは食欲低下も著しくなったため受診した。

**既往歴** : 下腿浮腫に対して少量のループ利尿薬を処方されている。

**生活歴** : 夫(94歳)と2人暮らし。喫煙歴と飲酒歴はない。

**家族歴** : 妹が悪性リンパ腫であった。

**現症** : 意識は清明。身長153 cm、体重45 kg。体温36.7℃。脈拍72/分、整。血圧152/70 mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 98%(room air)。眼瞼結膜は貧血様である。頸静脈の怒張を認める。心音はLevine 2/6の全収縮期雑音を認める。呼吸音に異常を認めない。腹部は肋骨弓下に肝臓を1 cm触知する。下腿浮腫を両側に認めるが熱感や圧痛はなく、圧迫により生じる圧痕は圧迫を解除すると戻る。四肢に明らかな麻痺を認めない。

**検査所見** : 尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)。血液所見：赤血球350万、Hb 8.1 g/dL、Ht 27%、白血球7,800。血液生化学所見：総蛋白5.1 g/dL、アルブミン2.5 g/dL、AST 40 U/L、ALT 50 U/L、LD 282 U/L(基準120～245)、CK 70 U/L(基準30～140)、尿素窒素19 mg/dL、クレアチニン1.0 mg/dL、血糖93 mg/dL、HbA1c 5.6%(基準4.6～6.2)、総コレステロール160 mg/dL、トリグリセリド166 mg/dL、Na 142 mEq/L、K 3.8 mEq/L、Cl 108 mEq/L、Ca 7.5 mg/dL、Fe 10 μg/dL、TSH 3.6(基準0.2～4.0)、FT<sub>3</sub> 2.4(基準2.3～4.3)、FT<sub>4</sub> 0.9(基準0.8～2.2)、BNP 110 pg/mL(基準18.4以下)。CRP 0.2 mg/dL。12誘導心電図で完全右脚ブロックを認める。胸部エックス線写真で心胸郭比50%、肺血管影の増強はなく、両側の肋骨横隔膜角の鈍化を認める。

72 浮腫の原因で可能性が高いのはどれか。2つ選べ。

- a 腎 性
- b 心 性
- c 炎症性
- d 内分泌性
- e 低蛋白性

73 貧血の原因精査のために便潜血検査を行うことにした。

自宅での検体採取に関する患者への説明で適切なのはどれか。

- a 「この検査は5日間連続で行います」
- b 「できるだけ多く採取してください」
- c 「容器に入れた便は室温で1週間保存可能です」
- d 「採取前日の20時以降は食事をしないでください」
- e 「1回の排便につき1つの容器に採取してください」

74 便潜血検査の結果が陽性であったため下部消化管内視鏡検査を行ったところ大腸癌と診断された。入院して腹腔鏡下手術を行い、術後経過は順調で退院予定である。退院前に高齢者総合機能評価<CGA>を行った。

評価すべきこととして**適切でない**のはどれか。

- a 聴 力
- b 認知機能
- c 運動機能
- d 気分・意欲
- e 基本的日常生活動作<ADL>

75 日齢10の男児。生後3日目に腸回転異常症の手術を行い、術後は中心静脈栄養を行っていた。排便を認めたため、術後5日目から人工乳の哺乳を始め、中心静脈栄養を漸減していた。現在の体重は3,200 g。人工乳は1回量20 mLを8回投与している。中心静脈栄養製剤の組成はブドウ糖15%、アミノ酸1%である。人工乳のエネルギーは0.7 kcal/mLで腸管からの吸収率は100%とする。患児の必要エネルギー量は100 kcal/kg/日である。

患児の必要エネルギーを満たすための静脈栄養投与量(mL)を計算せよ。

解答：    mL

① ② ③

0 0 0

1 1 1

2 2 2

3 3 3

4 4 4

5 5 5

6 6 6

7 7 7

8 8 8

9 9 9













